

10

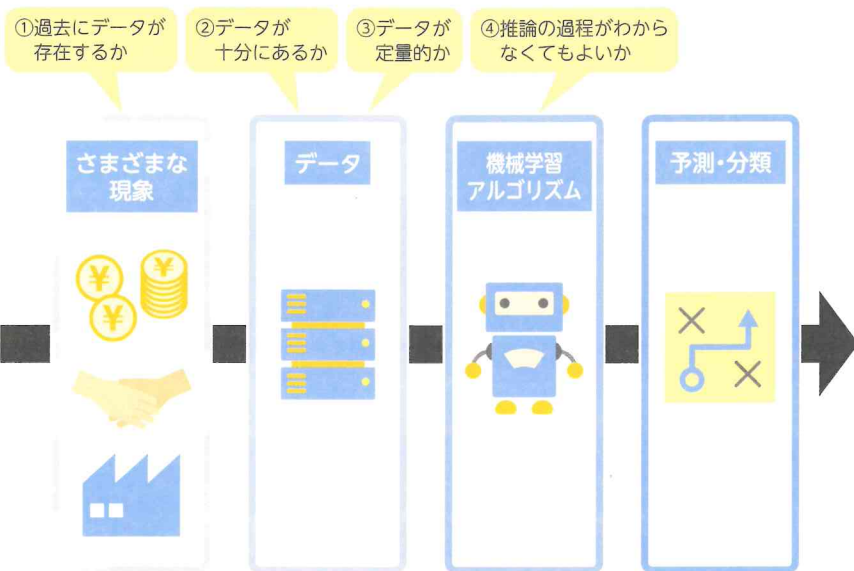
得意な分野、苦手な分野

機械学習にも、得意な分野と苦手な分野があります。事業に人工知能を導入すべきかどうか、あるいは「人工知能に代替される職業」のようなフレーズについて考えるときなど、知っておくと役に立つ場面も多いでしょう。

● 人工知能が得意な分野、苦手な分野

人工知能が得意なものと苦手なものを知るには、4つの注目すべきポイントがあります。①過去にデータが存在するか、②データが十分にあるか、③データが定量的か、④推論の過程がわからなくてもよい、です。まずは下図の一覧を確認し、それぞれの意味を順に理解していきましょう。

■ 注目すべきポイント



①過去にデータが存在するか

すでに確認してきたように、機械学習は過去のデータを学習することで未知のデータに対する分類や予測を行うアルゴリズムです。そのため、過去に起きたことのない事象やデータの蓄積がないものに対しては、分類も予測もできません。

具体例を挙げると、ある企業において、すでにデータが存在する「**現在の効率化や改善**」において、機械学習は十分に能力を発揮することができます。しかし「**新しい事業を展開した場合の売上予測**」といった問題に対しては、学習データとなる「新しい事業を展開したときの売上記録」がないため、利用が難しいといえます。

■ データがある場合のみ、予測は得意

過去のデータがある場合

| データ | 気温 | 売り上げ状況 |
|-----|-----|--------|
| 7/1 | 26℃ | △ |
| 7/2 | 32℃ | ○ |
| 7/3 | 30℃ | ○ |
| 7/4 | 23℃ | × |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ |

現状の効率化・改善



もし過去のデータがなかったら……

